

愛知で生まれた子ども達の
人生の豊かさに向けて

中小企業の
人手不足を改善するために

小学生から職に就く意識を育てる、愛知県のキャリア教育



愛知県の取り組み

できるだけ早い段階から、子ども達が将来の生き方を考え、「職に就く意識」を育てる、「魅力あるあいちキャリアプロジェクト」を実施しています。

発達段階に応じた統計的なキャリア教育を推進

小学校

- キャリア教育の視点を取り入れた体験学習
- 振り返り活動を行い、中学生につなげる

中学校

- 職場体験等の体験活動を核に、3年間のキャリア教育
- 振り返り活動を通じたキャリア形成

高等学校

◎ 未来を生き抜く人材育成事業

- キャリア教育コーディネーター活用事業
- 地域ものづくりスキルアップ講座(現場実習)
- 地域産業専門講座(農業・漁業など)
- アントレプレナーシップ教育推進事業
- 産業教育・STEAM教育普及事業
- 産学連携地域活性化事業

◎ 高等学校 海外連携推進事業

- 専門高校生 海外インターンシッププロジェクト



製造業の現場でのキャリア教育の実施には、安全面から受入が難しいという課題も現実的には存在

なぜ、高卒人材の確保が難しいの？

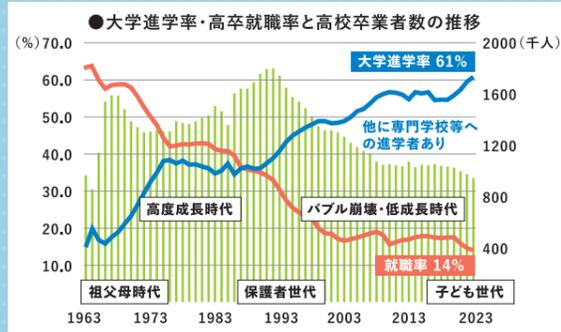
確保できない！
高卒人材が

大きな原因の一つ
中小企業の人手不足の

18歳の約8割が大学等への進学を選択

高卒よりも大卒の方が就職やキャリアにおいて有利だと考える人が多い

大学進学をした学生側にも奨学金返済の負担がのしかかる!?
大学進学のために借れた奨学金の返済に苦しむ若者も増えています。将来の生活設計(結婚・子育て・家の購入など)に影響を与えています。



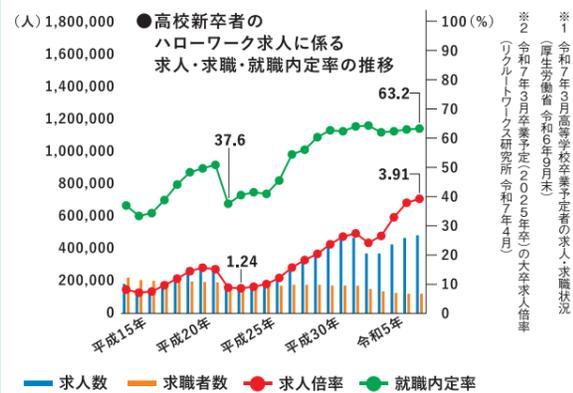
「求人を出しても高卒人材の確保ができない」という中小企業が増加しています。高卒人材の確保が難しい現状を探ります。

日本の平均では1人に約4社が殺到！ 高卒の求人倍率が過熱

一方、大学卒よりも高卒の方が就職しやすい現実も！

高卒求人倍率 3.91倍
大卒求人倍率 1.75倍

中小企業が求人を出しても応募がない。高卒の新卒採用をあきらめる企業も増加。



モノづくり王国の愛知県の状況はさらに深刻です。例えば、県内の工科高校の状況は…?



求人倍率の実績 令和6年度(令和5年度)

岡崎工科高校	18.5 (12.2)
愛知総合工科高校	27.6 (20.6)
春日井工科高校	26.5 (16.9)
名古屋工科高校	24.5 (22.4)
瀬戸工科高校	21.3 (21.6)
半田工科高校	17.6 (13.4)
豊川工科高校	15.9 (13.0)
豊橋工科高校	14.1 (14.3)
碧南工科高校	15.9 (14.8)
一宮起工科高校	25.8 (—)
一宮工科高校	22.6 (—)
小牧工科高校	20.0 (—)
豊田工科高校	12.5 (—)

各校調べ(令和6年度)

県内の主な工科高校別の求人倍率

高卒人材の採用競争に勝てない

少ない高卒の人材を大企業が採用

大企業が、数少ない高卒の人材を奪ってしまう。愛知県内は三河も尾張も同様！

他産業との採用競争も…

サービス業など他産業とも採用競争が激化。夜勤や年間休日日数が少ない等、働き方にネガティブな印象を持つ人も。

これからの早活(=高卒)就職

ホワイトカラーこそがAIに仕事を奪われるとわかってきたことで、米国では職業訓練校の入学者が急増しています。「学歴よりも希少性が価値を生む時代」へ社会が変化していることを真剣に考える時期にきています。



高卒就職の価値観を高め、広める

高卒就職を「早活人材」へ

高卒就職のマイナスイメージを改めて、早く社会に出て経験を積み、成長する「早活人材」という考え方を取り入れる企業も。入社後に働きながら学べる環境を用意する企業も増えてきています。

進学と就職のキャリアを等価に

高卒でも出世はもちろん可能ですが、大卒と比較すると機会に恵まれないイメージがあります。高卒就職者のキャリアを整備し、非合理的な学歴格差をなくす必要が、企業にも社会にもあります。

インターンシップの活用

インターンシップで実際に体験することで、イメージの悪い業界でも「こんなに面白い仕事があったのか」に変わることもあります。

アプレントイスシップの導入

「アプレントイス=訓練生」として働き、収入を得ながら、スキルを身に付けながら、将来や進路について考えていく働き方が、ヨーロッパをはじめ世界的に広がっています。

中小企業の働き方改革

適性・公正な人事評価と処遇、学習・研修機会の提供、キャリア開発支援などで、ウェルビーイング経営(社員が身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること)の導入を図り、生産性向上やイノベーションにつなげることは、大企業だけでなく中小企業にも求められています。

山口たけしの思い

私が大学に進学した1988年当時は、18歳の就職者と大学進学者がそれぞれ40%弱とほぼ同数でした。その後の約40年で、就職者の割合が約14%と圧倒的に減少しました。さらに私の同級生は全国約187万人で、今年の18歳は約109万人ですので、18歳就職者の激減は明らかです。

愛知はモノづくり王国であり、その現場を長年支えてこられた技能系人材の多くは高卒就職者です。だからこそ大企業も中小企業も高卒就職者を共に求めあい、結果として中小企業の人出不足が深刻化しています。

子ども達に読んでほしい山口おすずめの本



17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。

村上龍さんが書かれた『13歳の進路(写真左下)』の冒頭を紹介すると、「進路は未来へとつながっている。できれば親や教師や社会から「振り分けられ」「与えられる」のではなく、自ら「選びとる」という積極性を持ってほしい。」と子ども達に向けて綴られています。

今は『いい学校を出て、いい会社に入れば安心』という時代ではありません。愛知県の企業は大手も中小も『モノづくりはヒトづくり』という価値観を大切にしています。愛知で生まれ育った子ども達へのキャリア教育の充実を通じて、子ども達の明るい未来と、モノづくり王国の発展の両立が図れると信じて取り組みを進めていきます。

